



発行所 郵便番号 260-0013
千葉市中央区中央4丁目14番10
千葉日报社
電話 043(222)9211

©2011

11月21日(月)

需要高まる遺品整理士

高齢化や核家族の増加で需要が高まっている遺品整理士。昨今の「孤独死」問題も背景に参入業者は増えているという。一方で、業者の中には一般廃棄物の許可を得ずに業務を請け負うなどのケースもあるという。質の低下を懸念する声も。こうした中、業界の健全化へ遺品整理に携わる人々が「遺品整理士認定協会」を立ち上げ、関係法規の順守など業者の育成に乗り出した。

2010年の国勢調査結果によると、県内の核家族は約150万世帯、高齢者のみと思われるのは約46万世帯。10年前と比べ核家族は11%増、高齢者にいたっては実に1.8倍と急増している。核家族の場合、1人が亡くなると、葬儀などに追われる遺族が数日で遺品を整理することは難しい。高齢者のみの世帯ではさらに困難だ。

こうした中、近年注目を集めているのが「遺品整理士」。故人の思いがこもった品々を「供養」の観点を重視しながら扱う専門家で、同協会が育成を手がけている。

需要が高まっている一方で、問題視されているのが遺品の不法投棄だ。遺族に代わり遺品を形見分けし、残りを供養して処分する整理士の仕事。現状では、リサイクル業や清掃業者のほか、いわゆる「便利屋」が参入しているが、中には一般廃棄物やリサイクル品を区別なく処分するケースもあるという。

一般廃棄物の処分や運搬を行う場合、市町村の許可が必要で、無許可操業には刑事罰も適用。千葉市では「遺品の整理もします」と記載したチラシを配布していた不要品回収業者に対し、適正に廃棄

健全化へ 業界団体も 健全化へ 業界団体も 健全化へ 業界団体も

物処理を行うよう注意した。

一般粗大ゴミのほか遺品整理も手がける京葉産業(千葉市花見川区)は「一般廃棄物処理の許可を得ずに遺品整理をする業者を見た」と証言。古物商の許可のみで『何でも片付けます』と宣伝カーを走らせていたという。

また、参入者の急増に対して、20年ほど前から県内で遺品整理をしているアンシン(白井市)は「誰にでもできると思っているのではないか」とサービス

同協会では遺品整理に関係する法律の知識から遺族とのやりとり、金額の見積もりまで適切な業務の流れを通信講座で業者に提供。「正しい知識を持つてもらいたい」と業界全体のレベルアップに努めるとしている。

遺品整理の仕事を通じて若者が生きる意味を見いだす姿を描いた映画『アントキノイノチ』が県内15劇場など全国で公開が始まった。第35回モンテリオール世界映画祭イノベーションアワード受賞作。



遺品整理士養成講座

あなたが生きてきた証。

遺品整理士認定協会は講座を通じて業界のレベルアップを図っている

協会の詳細情報はホームページをご覧ください
http://www.chiba-riosei.or.jp/